



中高生とともに差別と闘う

『自分たちで作ったから』

吉成タダシ



自分たちで作ったから

「中学校の時に経験した人権学習が今の私にどうつながっているかっていうと……」

人権学習っていうのは、本音でその人とぶつかりますよね。「本当に思ってるの？」とか、「そんなの上辺だけじゃないか？」とか。「分かるよ」というのに対して、「本当に分かってるの？」って議論になることって結構多いと思うんです。けどそういう議論が、私は大事なじゃないかなって思っています。そういう人権学習の方が、意外と自分の頭には残ってて、自分たちで作った人権学習は、自分の心の中にきつと残ります。私も残ってます、それは。

例えば、私からすると性格のちよつと荒っぽい子が、ポロっと泣いたりしたことが。

私が印象に残っているのは、自分の両親のことで悩んで泣いてた子がいて。「あー、この子は、こういうことを考えてたんだな」ということをそのとき思ったんです。人は見た目で判断しちゃいけないですけど、その子の側面はいろいろあるんだなって思っています。もつとその子を知りたいって私は思いました」

ママが話の初めの方で、「地区の子とは気が合わない」と言っていました。が、ここで登場する「ちよつと荒っぽい子」というのが、同じ立場の地区出身の仲間でした。確かに気は合わないのかもしれませんが、合わない者同士に無理矢理、「仲良くなれ」とい

うのもおかしいなものです。ですがせめて、認め合える関係性はつくってほしいなと思うし、つくれるのではないかなと思うのです。その可能性の扉は閉じずに開けておいてほしいなと思うのです。認め合えるまでに時間はかかるし、いくつもの経験や取組は必要でしょう。でも、「自分たちで」とことん語り合う人権学習で、自分の内側にあるものをシェアし合い、ママたちは次第にその距離を縮めていったのだと思います。

人を知ろうとする力に

「そういう知りたいたいという力が、私は看護学生なので、患者さんを知ろうとする力につながっていると私は思います。」

患者さんが主張したことでも、その裏には何かがあるか分からないし、どういうふうにするか分からないし、何と分からない。それは傍にいて、何とか知ろうとする力も大事だと思っています。けど、その人の思いを全部受け止めることもできないし、苦しいって言われても、きつとうまく言葉もかけられないと思うんです。けど、かけられなくてもいいから、傍にいてうなずくだけでもいいし、何とかしてその人のことを理解しようとして、知ろうとする力に、私は今つながっているんじゃないかなと思います。以上で私からの話を終わります」

「集団で語り合う人権学習」を受けた元中学生への追跡調査アンケートで、次のように書いてきてく

れた教え子がいました。

「一番印象的であったのが、普段の学校生活では語り聞くことができない仲間の言葉を聞くことができたことでした。決してまじめとはいえない雰囲気と同級生が、実は物事を深く考えていたり、核心をついた事を言ったりする、そのことが私の中で「偏見を持つていたら、本質はわからない」と実感するきっかけとなり、まさしく人権体験学習であったと思います。人が熱くなったり、一生懸命に何かを訴えること、発言することが、恥ずかしいことではないと思えたのも、あの学習があったからです」(三十代女性)

この回答とママの言葉が、私のなかでダブルながら重なりました。「人はみんな違う」とは言うものの、どこが違うかは、実際に知らないと分かりません。知って初めて分かるはじめるものです。そのうえで認めることができ初めて、「みんな違っていい」となるのだと思います。けど実際は、言葉ばかりが先行して、「思い」が追いついてないような気がします。心の底からそう思えるにはやはり、「人を正しく知る」ことからはじめなくては、と思うのです。

アツイ季節

午前に行われたママたちのシンポジウム。午後の中学生による人権意見発表。それを受けて、参加者全員で意見交換を行いました。いじめ問題や障がい者問題、日常的に交わさ

れる悪口について、またママの話を受けて、それぞれの家族について語りはじめる中学生もいました。

「自分のおじいさんは心臓に生活習慣の病気を持っていて……」

「私の母さんは、私が小六のときまでバリバリ仕事をしていましたけど、うつ病になってしまっって、そこから膠原病という病気になって……」

「私のお母さんは病気で亡くなっています。父さんは周りのことを、すべて叔母に任せきりだと、姉といつか愚痴ったことがあります。けれど……」

言ったからといって、急に何かが好転するというものではないかもしれない。でも、自分ひとりでは抱え込めず、声に出して言った方がいいのかもしれない。それに、ありのままの自分を受け入れてほしいと願うならば、それは乗り越えるべき試練ともいえます。その試練はリステクを伴うものかもしれませんが、周囲との関係性を劇的に好転させる可能性を秘めているように思います。

「自分の経験(塾講師)でも、中学生に関わる中で、話し合いはやっぱり必要だと思う。みんな、人との繋がり求めてるように思います」(二十代女性)

やはり、追跡調査アンケートに書かれていた一節です。

今年もまた、アツイ季節がやってきます。七月に開催される、「人権を語り合う中学生交流集会」。今回はどんな出会いが待っているのか。今からワクワクです。